



“ヒト”も”クマ”も 楽しく暮らす 森づくり

環境あきた エコ活動支援助成金 報告会資料

■ 目的

- ① 地域内外の専門家や研究者と協働し、秋田のクマの「環境的・文化的な価値」と、その現状や保全に関する「科学的な根拠」の理解普及に努める。
- ② 理論のみならず、山菜採りやきのこ採りなど地域の日常に活用できる、情報や知恵、用具を提供する。
- ③ これらを通じて得た現状の理解と対処法に加え、クマにとって里よりも奥山が快適となるような森作りを進める。

■ 報告 (2/29(土)クマ談義#6「山の実成りの悪い年のクマは春にどうする?」 + クマの冬眠ウォッチング)



<参加者> 11名

※子ども参加者がいなかったため、
冬眠ウォッチングは中止、談義のみの開催
となった。

<内容> マタギの経験では、実成りの悪い
年は冬眠入りが少し早まることはあるが、エ
サを探して遅くまで歩き回ることには無い。冬眠
中も眠れず出歩いたり、早く目覚めるとい
うような変化も特に無い。

研究者より、マタギさんの経験通り実成りの
影響は奥山のクマにはさほど関係が無く、出
没増の原因は純粹に里山に住み着いたクマ
の増加によるものと考えるのが自然。

<まとめ> 今春は実成りの良否にかかわら
ず、里山のクマへの警戒が必要と思われる。

■ 報告 (6/1(土)~10/31(木) クマスプレーレンタル)



<レンタル数> 期間中6件

※単なる用具の貸し出しだけではなく、クマとの遭遇
事故を防ぐための啓発プログラムとして、

- ・野山でクマと出会わないために
- ・こんなところにクマはいる
- ・クマのいる印(フィールドサイン)
- ・出会ってしまった時の対処法

などを記載したリーフレットを作成し、レンタル時に
配布する予定だったが、リーフレットの原稿作成に
手が回らず、2019年度はシステムとしてレンタル事
業を構築することができなかった。

そのため積極的な貸し出しを行うことができず、接
客の流れの中で貸し出す程度での実施となってし
まった。

■ 報告

(8/6(火)ドングリ類の植樹 + 外来種駆除)

※第15回森吉山麓ふるさとサマーキャンプの1日として実施)

<参加者> 小学生20名、中学生1名、大人9名 計30名
<植樹数> ブナ、ミズナラ等 60本

<駆除数> オオハンゴンソウ 17袋(45L)



□ 報告ホームページ抜粋

(8/6(火)ドングリ類の植樹 + 外来種駆除)



(ドングリの植樹)

もともとはブナなどの原生林が広がっていた森吉山麓高原ですが、その一部が放牧のために伐採され牧草地となりました。現在は放牧も終了し、その役目を終えた牧草地を元の森へ還すため、クーンでは現地で種を拾って苗を作っています。3～5年ほど育てた苗を順番にポットから植え替えていて、今日はその苗を1人2本ずつ牧草地に植樹しました。各自スコップで穴を掘り、底に腐葉土を敷いて苗を植え、土を戻して支柱を立てたら完了。草原もそれはそれで気持ちがいいのですが、もともとの森の姿になる日を夢見てみんなで植えました。



午後(外来種駆除)

キクの仲間で黄色の大輪の花を咲かせるオオハンゴンソウ。きれいな花ですが、在来の生態系に与える影響が大きく、国の特定外来生物に指定されていて、森吉山麓にも群落ができています。駆除が必要ですが、繁殖力が強く繁殖方法も多様なため、抜いたとしてもその後処理をきちんとしなければならず、駆除するにも資格が必要です。クーンはその資格を持っているので、子どもたちと一緒にこの厄介者の駆除を行いました。"根こそぎ草を抜く"という作業はアドレナリンが出るようで、みんな大興奮で抜きまくり、予定エリアを超えて駆除することができました。

■ 評価

「“ヒト”も“クマ”も 楽しく暮らす 森づくり」のために

★ “ヒト”が“クマ”を知ること

- ・年々更新される秋田のクマに関する知見を、阿仁くま園園長 小松武志氏から情報提供していた
だき、“最新”の秋田のクマについて知ることができた。
- ・クマとの“適度な距離感”を保ってきた地域の伝統を、マタギの鈴木英雄氏から伺い、その知恵を学
ぶことができた。
- ・クマと遭遇した際の正しい退避方法を、実際に山に入る人に口頭ではあったが啓発することができた。

★ “クマ”が“ヒト”に近づき過ぎない環境作り

- ・クマにとって快適な森を維持することで、遭遇事故を防ぐことができることを学び、さらに、そのための
具体的な行動を起こすことができた。

★ 課題

- ・もともとクマの棲息密度が高く“見慣れている”地域の人々に新しい知見や情報、正しい遭遇事故の
防ぎ方や身の守り方に興味を持っていただくこと(募集告知の仕方)の難しさを感じた。

■ おわりに

2004年の創設以来、私共のNPOは森吉山及びその山麓の自然や文化の価値を継承し、伝えることを使命として活動
を続けてきました。当初は、クマもただ森吉の豊かな自然の一部としてのみ捉えていましたが、2012年の八幡平クマ
牧場の事故以降、地域の伝統的な“ヒト”と“クマ”との“適度な距離感”に変化の兆しを感じ、クマに特化したプログラム
を展開するようになりました。ところが近年、里でのクマとの遭遇事故が増える傾向となり、私共もより具体的な事故
防止の活動を行う必要性がさらに高まっていると認識しています。
まだまだ非力ではありますが、今後も“ヒト”も“クマ”も楽しく暮らせる社会を目指して活動を進めていきたいと思ひます。

最後になりましたが、2019年度の活動では以下の皆さまにたいへん
お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

- ◇ NPO法人 環境あきた県民フォーラム ◇ 阿仁くま園
- ◇ 阿仁猟友会 ◇ 国際教養大学 ◇ 国民宿舎 森吉山荘
- ◇ 打当温泉 マタギの湯 ◇ 環境省東北地方環境事務所
- ◇ 秋田県生活環境部 自然保護課、農林水産部 森林整備課
- ◇ 北秋田市、大館市、秋田市、五城目町、上小阿仁村各教育委員会

(敬称略)

